


子ども食堂・子ども宅食における 政府備蓄米 活用事例集



✳農林水産省では、令和2年度から、食育によるごはん食の拡大を図るため、子ども食堂や子ども宅食への政府備蓄米の無償交付を行っており、令和3年度は554件（97トン）
令和4年度は666件（168トン） を交付しています。

✳政府備蓄米を活用して活動されている事例を御紹介します。



(写真1) 子ども食堂開催の様子



(写真2) お弁当



団体概要

- ◇取組開始時期：2019年6月にお弁当配付の取組を開始。
- ◇活動体制：常勤スタッフ（4名）、ボランティア（6名：学生含む）
- ◇取組を開始した経緯：
 - ・動坂町内の地域の催しなどで食事の手伝いを行う中で、支援できないかとの思いから**子ども食堂を開始**。
 - ・**居場所づくり、お弁当配付の取組を通して**、母子家庭の情報を社会福祉協議会と共有することで、**困っている家庭の橋渡し役**として活動。

取組概要

- ◇開催頻度：毎月1回開催
- ◇対象者・地域：文京区内の生活困窮の子育て世帯
 - ・カフェ形式で開始する場合は、入替制で70～80名
 - ・お弁当配付の場合は100名程度
- ◇食品の調達方法：**お米は政府備蓄米の無償提供**や、社会福祉協議会からの支援（開催毎に1万円）及び大人の参加者から徴収した参加費（1回300円）により、スーパーから購入。他に、**農家、企業からの食材提供**を受けている。
- ◇開催周知方法：①SNSの活用
②社会福祉協議会からの紹介
- ◇他機関との連携状況：
 - ・**文京区**：母子家庭に関する情報を社会福祉協議会を通じて提供
 - ・**社会福祉協議会**：子ども食堂に関する情報提供。開催費用の支援。この他にも地域の農家や企業からの寄付を受けている。
- ◇食育の取組：
 - ・**子どもの年齢にあわせて食育の資料を作成し、配付**している。
 - ・**子どもの好き嫌いを改善するレシピなど工夫して資料を作成**している。

参加者の反応

- ◇学習支援の取組をきっかけに、地域との繋がりができ、**子ども食堂やお弁当配付の取組を行うことで、母子家庭で食事を作る時間が取れない家庭からは、喜びの写真や感謝の声が届いている。**
- ◇また、**地域での交流の機会**ができ、**悩みごとなどを相談できる場所があることに感謝**されている。

今後の展望・課題

- ◇食材の保管場所の確保に苦勞している。
- ◇**地域で連携し、食材の提供が拡大することを期待。**

団体概要

- ◇取組開始時期：2020年1月子ども食堂設立。2020年9月以降は毎月第1土曜日に開催。
- ◇活動体制：常勤スタッフ（5名）、ボランティア（18名）
- ◇取組を開始した経緯：ひとり親世帯や困難な課題を抱える子どもたちが、地域とのつながりを持ち、安心して暮らすことができるように、子ども食堂や学習支援の提供を行う地域の居場所づくり、子どもの課題を早期に発見する仕組みづくりを目的として取組を開始

取組概要

- ◇開催頻度：月に3回、子ども食堂（第1土曜日）、弁当配付会（年3回程度）
食材配付（第3土曜日）
- ◇地域・対象者：横浜市南区六ツ川上第2自治会区内（7割）及び周辺地区（3割）の子育て世帯 定員100名（平均50名程度参加）
- ◇食品の調達方法：**お米は政府備蓄米の無償交付、フードバンクの寄付等。**
その他の食品は、フードバンクや食品企業等による寄付等。
- ◇開催周知方法：
 - ① ホームページから登録申請を行い、**登録が認められた世帯を対象に、LINEなどのSNS、ホームページから開催日時の周知**をしている。
 - ※ 登録が認められる世帯：当会の活動に対し理解を求め、当会の取組を遵守することを求め、子どもの生活状況を提供できる等を誓約できる世帯のみを対象。
- ◇他機関との連携状況：
 - ・フードバンクかながわ、セカンドハーベストジャパン、わくわく広場、
 - ・横浜市南区子ども家庭支援課のほか、株式会社マルハニチロ等の食品企業等と連携して活動している。
- ◇食育の取組：**食育に関する資料を配付**するとともに、**共食を通じてごはん食の楽しさ**を肌で感じて貰う取組を行っている。
- ◇衛生管理等：**子ども食堂、フードパントリーに取組むにあたり、食品を扱う団体として、常勤スタッフが食品衛生管理者等の資格を保有。**

参加者の反応

- ◇ピビンバ、スープとても美味しかったです。子どもはおかわりしたかった！というくらい喜んでいました。初めて食べるきのこや食用ほおづきがとても嬉しかったです。翌日どうやって料理しようって会話もはずみました。（40代HNさん）
- ◇ご飯がとても美味しく野菜も沢山使っており子供にも優しくとても嬉しかったです。パントリーもとても助かりました。（40代TAさん）

今後の展望・課題

- ◇地域コミュニティの中で、こどもが安心して過ごせる場所の提供。
- ◇こどもの成長支援につながる活動の取組。
- ◇SDGsに取り組む企業や団体と子ども食堂が連携することで、食材ロスを減らすことで、一層SDGsの達成へ貢献する。
- ◇一般家庭からの参加を断ることに苦慮。
- ◇配布対象を明確にすることで、取組趣旨の理解を得られる。



（写真）食事提供風景

団体概要

- ◇取組開始時期：2016年9月子ども食堂開始。2023年11月 nijimori Café 開始予定。登校日15:30～、休校日10:00～
- ◇活動体制：常勤スタッフ（2名）、ボランティア（大学生、高校生、教員OB、塾指導員、一般ボランティア等）
- ◇取組を開始した経緯：コロナ感染拡大対策による、学校の休校に伴い給食の代わりにお弁当配布を開始し、その後、子ども食堂を開設

取組概要

- ◇開催頻度：平日（登校日）15:30～20:00 学習支援後、18:00から夕食。
土・日・祝日（休校日）10:00～16:00。学習支援は随時。12:00からランチ。
- ◇地域・対象者：那覇市真和志地区を中心に登録された子育て世帯の子ども約200名。
（1日20名程度参加）
- ◇食品の調達方法：米は政府備蓄米の無償交付、フードバンクからの寄付等。
その他の食品は、個人、フードバンク、食品企業等による寄付と購入等。
- ◇開催周知方法：口コミ、小中学校等の連携先から子育て世帯へ紹介。
初めての来館した子どもには、承諾書を配布し、提出された承諾書に記載の保護者へ利用方法等の確認電話。
登録された子どもを対象に公式ライン等にて開催を周知。
- ◇他の機関との連携：小中学校、民生委員、児童委員等との情報共有。那覇市役所との情報共有や活動への支援。那覇市社会福祉協議会から食材への支援。日本財団からの研修、活動等への支援。
- ◇食育の取組：大学生等によるごはん（お米）に関する資料の読み聞かせを行っている。
また、食育サイトを活用した月1～2回の子どもクッキングの開催。→参加した子ども達は、日常的に調理や片付けの手伝いをする事で、食の大切さを実感。
さらに、みんなと一緒に食べることで、食事の楽しさを実感することができ、食育の推進に寄与。

参加者の反応

- ◇ 休校で給食がなく食費が大きな負担となっていたが、相談したところ弁当を配布いただき、安心して仕事に行くことができた。
- ◇ 弁当配布やイベント情報をSNSで知ることができ、子どもの様子もわかり安心。
- ◇ 子どもは月1回開催のクッキングを楽しみにしており、喜んで通所している。
- ◇ 毎月の通信により、イベント情報やクラブ活動日が把握できるので活用している。
- ◇ 親子参加型イベントを使用している。



（月1回のクッキングの様子）

今後の展望・課題

- ◇ 活動を継続させるため、資金確保が必要。
- ◇ 周辺地域の住民、地域の学童、企業や団体・学校、商店街等との連携を深め、相互の協力を高めることが必要。
- ◇ 現在の学習支援に加え、運動機能向上、ストレス解消・発散のため、学校施設を有効的に活用したい。
- ◇ 保護者の子育て応援のための活動も充実させて行きたい。

団体概要

- ◇取組開始時期：2021年2月
- ◇活動体制：常勤スタッフ（2名）、大学生などのボランティア（各回20名程度）
- ◇取組を開始した経緯：
 - ・2019年から、「神戸の魅力は人である」という思いを集約したシビック・プライド・メッセージ「BE KOBE」のもとで、**子どもを支援する活動を幅広く実施。**
 - ・コロナで食支援の必要性が高まったことを受け、2021年2月に実証実験として食品パック配付の取組を実施。
 - ・**同年8月から本格的に食品パック配付の取組を開始。**



(写真1) 食品パックの内容

取組概要

- ◇開催頻度：2か月に1度、各家庭にお米（2kg）やレトルト食品など**約1週間分の食品10kg程度を配送**
- ◇対象者・地域：神戸市内の児童扶養手当受給の子育て世帯（各回600世帯）
- ◇食品の調達方法：企業等からの寄付、購入。
政府備蓄米の無償提供（米）
- ◇開催周知方法：神戸市が発出する児童扶養手当受給更新の案内通知へのチラシの同封。
LINE（おやこよりそいチャット）の活用。
- ◇他機関との連携状況：3者と以下の内容で連携して活動
 - ・**神戸市**：対象家庭への案内、食品の調達
 - ・**認定NPO法人フローレンス**：子育てに関する情報を、子ども宅食の利用者にLINEで伝えるサービス「おやこよりそいチャット」の運用
 - ・**神戸子ども食堂ネットワーク**：対象家庭の情報共有
- ◇食育の取組：ボランティアの大学生が手書きで作成した、**お米を使った料理のレシピ**を添付。

参加者の反応

- ◇配送後の利用者アンケートの結果では、食品パックの満足度は非常に高く、特に満足度が高い品目は、**保護者は「お米」、こどもは「お菓子」。**
- ◇**食育のレシピ**について、「早速料理してみた!」、「手書きがうれしかった」などの反応があった。



(写真2) 備蓄米の小分け作業の様子

今後の展望・課題

- ◇食品の調達に苦労している。
- ◇各家庭の実情にマッチした、**ごはんの炊き方といった調理方法や、レシピの情報を提供し、子育て家庭の食育につなげていきたい。**
- ◇「困ったことがあったときに行政機関にどう相談していいかわからない」という声が多い。**食支援の取組の一環として行っている「おやこよりそいチャット」**により、現場の声を行政に繋げていきたい。

団体概要

- ◇取組開始時期：2016年に夏休みなどの長期休暇中の取組を開始。2020年3月以降は毎月開催。
- ◇活動体制：常勤スタッフ（2名）、ボランティア（各回100名程度）
- ◇取組を開始した経緯：
 - ・子育て家庭からの「夏休みと冬休みは給食がなくなり、食費がかかって大変」との声を受け、パントリーを開始。
 - ・2020年3月以降はコロナ禍で休校が続いたことから、毎月開催。

取組概要

- ◇開催頻度：月に1度、各家庭にお米（5kg）と食品を配付。
- ◇対象者・地域：豊島区内の合計13拠点で、区内の子育て世帯（各回600世帯）に配付。
- ◇食品の調達方法：**お米は購入や寄付、政府備蓄米の無償提供等。**
その他の食品は寄付やフードドライブによる提供。
- ◇開催周知方法：
 - ① **豊島区や企業の協力のもと、子育て家庭を対象にフードサポートの取組**を実施しており、会場は公共施設や企業スペースで開催。
対象家庭にはメールで案内。申込み時に困りごとを聞き対応している。
 - ② 豊島区役所の窓口にご相談に来た方に案内。
- ◇他機関との連携状況：
 - ・豊島区：**官民協働で食料支援プロジェクト「ライス！ナイス！プロジェクト」**を実施。
 - ・豊島区民社会福祉協議会：コミュニティーソーシャルワーカーが、各制度や地域資源につないでいる。この他にも、株式会社サンシャインシティ、株式会社良品計画、株式会社ファミリーマートなど複数の企業と連携して活動している。
- ◇食育の取組：**食育に関する資料を配付**するとともに、「しっかりごはんを食べてね」などと声かけをしている。

参加者の反応

- ◇「お米が一番ありがたい」、「もらったお米がおいしい」、「お米を子供が食べるようになったのでとても助かっている」、「子どもがご飯が大好きなので、お米をもらえるのは凄く嬉しい」などの声があった。
- ◇ **食品の配付をきっかけにして、生活全般に関する相談**を聞いてもらっている。



（写真）食品配付風景

今後の展望・課題

- ◇ **食品の配付を介して毎月各家庭とつながり、困りごとを聞くこと**ができており、孤立予防を目的に活動は継続したい。
区役所や区内の関係機関とも連携し、地域で伴走する形になっている。
- ◇ **お米をどう確保するかが課題。**